

第1回野洲市総合計画審議会 福祉・生活部会 議事録要旨

●日 時

令和2年2月13日(木) 10:00~12:00

●場 所

野洲市健康福祉センター2階 集団指導室

●出席委員(委員区分毎・50音順)

1号委員:原田 小夜委員

2号委員:入江 幸一委員、黒木 稔委員、柴原 喬委員、田淵 勝美委員、羽田 慎二委員

●欠席委員

2号委員:衛藤 信之委員

●事務局

田中健康福祉部次長、中塚危機管理課主事

吉田政策調整部次長、玉川企画調整課課長補佐、垂企画調整課主査、松井企画調整課主事

●傍聴者

なし

1 開会

(1) 次長あいさつ

2 報告事項

(1) 基本構想素案について

—事務局より資料説明—

(2) 専門部会の進め方について

—事務局より資料説明—

3 審議事項

「第1次野洲市総合計画 - 改訂版 -」の施策ごとの総括について

2-5 低所得者福祉の推進

3-4 就労支援と勤労者福祉の充実

◇委員からの主な意見・質問

【委員】生活困窮者の支援について、野洲市は専門機関に依頼した後も一緒になって支援をしてくれるので、やりやすく、支援も充実していると感じている。

低所得者の住まいの支援として市営住宅があるが、辺りなところが多く、バス代も高いので困る。本来は駅に近い便利なところに住むべきだと思うが、そういうところに市営住宅を建てるのも難しいと思うので、一つの提案として、増え続ける空き家を活用できないか。市が登録制等にして間に入ることで、貸す方も安心できる。市営住宅を巨額な費用をかけて建て替えるより、空き家を活用すれば地域の治安のためにもなる。

【委員】精神疾患の方を支援しているが、賃貸を拒否される事例が増えており、住まいの確保に非常に悩んでいる。保証人の不要な物件にしか入居できず、しかしそこに住むと治安の問題があり、支援の悪循環となっている。精神疾患の方はサポートがきちんと入ることできちんと生活できる方もたくさんおられる。サポート体制をしっかりとした上で、管理会社と顔の見える関係を日ごろから築いていくよう心掛けている。空き家をうまく活用できればいいと考えている。

【委員】空き家については、教室等に使っている例はあるが、低所得者の住まいとなると難しい問題があると思う。儲けにならないので不動産会社が積極的に取り組むことはなく、市のバックアップが必要である。低所得者対策としても治安対策としても、市が入って取り組んでもらえると、野洲市として誇れる施策になると思う。

【委員】ひきこもりについて、今は親の年金で生活されている方でも、親が亡くなると収入が無くなる。働いていないと無年金になる可能性もあり、生活困窮者がますます増えるように思う。一旦就職したけど止めてひきこもっておられる方もあるだろうし、そういうことも考えながら、ひきこもりの把握や就労につなげるような方策を取っていかないと今後大変なことになると思う。

【委員】ひきこもりは何かサインが出てからでないと見つけにくい。若いひきこもりの方は少しずつでも仕事をやっていけるが、何十年も仕事をしていない方は難しい。単純労働が機械化されてきており、簡単にできる仕事が無くなってきている。ひきこもりの方を家から出すこと、まして就労につなげるということは簡単な話ではなく、生活保護に陥らないようにはどうしていけばいいのかを5年10年かけて検討しながらやるような息の長い話である。

【部会長】ひきこもりの方には精神疾患を持っておられる方もある。地域としてチームとしてどう支えていくか、どこでネットワークを組んでいくのかも考えていかないといけない。

【委員】要約筆記のサークルをしており、障がい者対象のサロンをやっている。そこは野洲市で空き家になった家を借りている。そういう活動に空き家が大いに利用されるよう、市に支援いただきたい。

【委員】就職困難者には、求人があってもそこには行けないような方とか、面接に行くのが怖くて止めてしまう方とか、いろいろな方がいる。他市のNPOで、面接まで一緒に行ったり、採用してくれる事業所と普段から付き合い、この人だこの事業所がいい等のマッチングを上手くしているところがあった。市がするのはなかなか難しいと思うが、いい取り組みだと感じた。

【委員】「やすワーク」についてはあまり知らなかった。

【部会長】いろいろな取組があるが、それぞれの連携の仕方や、知っているようで知らないことが結構あることが分かった。これも一つの課題ではないかと感じる。

2-7 市民生活の安全性の確保

◇委員からの主な意見・質問

【委員】見守りネットワーク事業に参加しているが、ステッカーと訪問販売を登録制にしたことにより、訪問販売は無くなってきていると感じている。抑止効果が高い。

詐欺の被害者リストは、一度掲載されると当事者の死亡後もずっと掲載されており、リストの信頼性に疑問を感じる声がある。

【委員】防犯パトロールは野洲市内全部を回っているのか。

【事務局】駅中心に北口と南口とを、年間を通してやっている。月に一度、職員と地元自治会10名程

度で北口と南口のパトロールもしている。また、青色パトロール車は月に何度か市内を回っている。

【委員】青色パトロール車は車で走っているだけである。もう少しパトロールの範囲を広げることは難しいのか。駅前限定というのは非行少年の防止ならそれでいいが、犯罪抑止のためにするのなら、野洲にはこんな取り組みがあるから行くのを止めようと思われるような、範囲を広げた取り組みが必要ではないか。

【委員】地域住民による自主的な取り組みを促進するような方策があってもいい。

【委員】直接防犯目的ではないが、青少年の夜間パトロールを月2回している。

【部会長】野洲は地域差があるように思うので、こういう防犯に関連するところはどこが手薄になっているのかが分かるかというのではないか。

【委員】地域によりかなり差がある。各自治会に責任を持たせ、組織体制を固めてやった方が、存在感も高くなるのではないか。

【委員】地域に委ねるといえるのは、自治会の方で拒絶反応が出ると思う。近頃、何かあったら地域でとなっており、何でも押し付けられている意識がある。また、若者は働いており、地域で受けても結局動くのは高齢者になる。

【部会長】現計画には入っておらず、次期計画への記載を事務局から提案されている、墓地や斎場について何か意見はあるか。

【委員】学区の墓地について、墓地を管理する人がどんどん減っており、管理費を納めない人が増えている。墓地に関する市民の感覚は変わってきている。市が現在進めている低価格の合葬墓は低所得者対策にとってもありがたい。

【委員】死後のことで課題となっているのが、一人暮らしで死後の事務を誰にもやらしてもらえない方への対応である。市民生活として、そういう方へのフォローをどう考えるかという柱を作り、その中に墓地もあるかと思う。

2-4 地域福祉基盤の充実

【委員】何でも地域に委ねられており、「地域にあまり期待しないで」と思っている人が多い。つながりや助け合い、支え合いといった昔から地域でしてきたことを一旦制度で壊しておいて、それを再度戻そうとしても、かなりの覚悟の上で取り組まないと戻らない。あまり夢ばかり並べて、現実とかけ離れていても仕方ないので、どういう風にしていくかが問題である。

【委員】成果が見えないと人間なかなかやる気が起きない。例えば先ほどの防犯パトロールでいうと、今犯罪率がこうだから、ここまで持っていきたいとお願いをする。そして、今ここまで下がりましたよと成果を伝えていく。何か目に見える成果や指標があればちょっとは協力しようという気になるのではないか。

また、ボランティアのモチベーションをどうやって上げていくのかということをもっともっと考えないと、ボランティアはやる気一つで止めてしまう。やるとなれば手伝ってくれる方もいると思うが、丸投げでは動かない。

【委員】成果指標について、ここは市民意識調査の結果を指標としているが、「相談窓口を設けた」で100%達成となるような指標を見かけることもあり、適切ではないと感じている。

【委員】ボランティア精神だけではボランティアはやっていけないと思う。しっかりした基本理念や達

成感がないと長続きはしない。特に若い人は、頼まれて押し付けられてやるのではなく、自分がやりたいことを積極的にやるという意識に変わってきたと感じている。

【委員】きちんとした目的があり、困っている人がいるならば活動しようという人は多分たくさんいると思う。地域にとりあえず投げるのではなく、課題や目的、目標をきちんと提示し、市が積極的にボランティアを発掘するようなことも必要だと思う。

【委員】ボランティア活動について、あそこはこういうことをやっていて楽しい、というのを植え付けていくと人は集まると思う。仕向ける方法を考えていく方がいい。

【部会長】どういう方にどういう活動をボランティアしてほしいのかが見えにくい。明確にしておかないと、何でもかんでも放り込んだような内容となっている。

【委員】小規模多機能型居宅介護は願わくば学区に1つという方向でもらえるといい。野洲市で1つでは、カバーは無理だと思う。支え合いや助け合いで地域ばかりに負担がかからないように、1つはサービスや制度でのカバーを念頭に置いてもらうといいと思う。

4. その他

3月7日開催予定のワークショップについて、事務局より説明。

5. 閉会